『トトロの森をつくる
トトロのふるさと基金のあゆみ３０年』

公益財団法人
トトロのふるさと基金　編著
合同出版 出版
2020年10月　　1,600円+税

本書は東京都と埼玉県にまたがる狭山丘陵地帯のナショナル・トラスト運動である、「トトロのふるさと基金」の三〇年の歩みを記した記録です。

ナショナル・トラストとは

一八九五年に英国で発足した団体である「National Trust」の活動と理念が広まり、国民のために国民自身の手で自然環境・歴史的建造物といった貴重な資産を寄付・買い取りなどで入手し、恒久的に守っていく活動です。

日本でも神奈川県鎌倉市の「御谷の森」や、北海道知床半島の「しれとこ一〇〇平方メートル運動」、和歌山県天神崎の自然環境保全活動などが有名です。

狭山丘陵では

一九八〇年、早稲田大学所沢校の狭山丘陵進出を受けて、基金の前身となる自然保護を目的とする連絡会がスタートしました。

建設を巡り大学・自治体との交渉は粘り強く続けられ、大学は計画を見直し、その過程は関係各所の様々な学びへと繋がりました。

大学との問題が一応の区切りをつけた後も、環境を守るための戦いは続きます。一九八八年、日本はバブル景気に突入し、東京都心では開発のための建設工事需要が増大します。そんな中で狭山丘陵は、都心からほど近い距離と比較的安い地価に残土処分に向いた地形から、建設資材置き場や建設残土処分場が乱立しました。さらに往復するダンプトラックに紛れてゴミの不法投棄が問題となりました。

この乱開発に対して危機感を強くした連絡会のメンバーですが、大学などの大きな組織を相手とした活動であれば、行政への働きかけなどで完全に阻止する事は可能になるものの、小規模で行政の許可を得る必要のない開発に対してはそのような対策を講じる事が難しく、新たな活動の方針が必要となりました。

トトロの森へ

そんな中、ナショナル・トラスト活動の事を知った連絡会のメンバーは、早稲

田大学との運動の経験からも、地権者になる事の重要性を痛感していた事から、市民自らが土地を持つために寄付金を募る呼びかけを決めました。

寄付をしていただく事の大変さから、活動のシンボルを探していたところ、宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」が公開されました。

宮崎駿監督が所沢に住んでおり、少し足を延ばしたところにある「八国山」をモデルに「となりのトトロ」劇中に出てくる「七国山」が名付けられたように、「となりのトトロ」で描かれる自然は、狭山丘陵に住む市民の心の原風景であることから、活動のシンボルとするため、宮崎駿監督及びスタジオ・ジブリへのお願いが実り、「トトロのふるさと基金」がスタートしました。

運動を続ける中で

土地取得は一九九一年に取得した「トトロの森一号地」から始まり、現在では五五号地まで到達しました（二〇二〇年一二月二三日現在）。

土地は取得すれば終わりでなく、それ以降も自然の保護のための整備活動を続けなければなりません。とりわけ地域の農業と共に形成されてきた自然環境を維持するためには、その文化を丸ごと保存する活動を行わなければ、真に環境を守る事には繋がりません。

運動の中では税制度上の問題や、農地に関する手続きの難しさなどの法制度の問題から、「トトロの森」という名前から観光目的で来た子連れの参加者に対して、どのように縁遠いナショナル・トラスト活動を紹介するかといった取り組みを広げるノウハウについての問題など、様々困難に対して挑んできた記録が、本書には記載されています。

多摩研という法人として

公益財団法人である「トトロのふるさと基金」と多摩研とでは、活動の内容や法人としての形態は違うものの、その歩みの過程での困難や人々との関わりには多くの共感を得ました。

本書に描かれたこれまでの活動の記録からは、三〇年前から受け継がれる思いが伝わってきます。

本書の中では、二〇〇七年に財団として今後の一〇年を見据えて「私たちは何を目指すべきか」を共有する長期基本計画を策定しています。その要にあるのは、ナショナル・トラストの基本に立ち返った、「恒久的に保存する」という考え方です。社会の変革や携わる人間が入れ替わっていく中で、貴重な自然環境・文化財を「恒久的に保存する」という決意を共有しています。

多摩研も来年二〇二一年に、五〇周年を迎えます。

地方自治・住民自治の思いを一〇年先の多摩研に伝えるためにも、五〇周年を機に多摩研のこれまでの歩みについて、様々な資料や発足当時を知るみなさまへの聞き取りを重ね、この貴重な機会を逃さず、先人の思いを受け取り、次の世代に渡すための活動に励みたいと思います。

（事務局　松川遥）

◆財政研究会リポート◆　第62回学習会

①「多摩の職員数の比較」
②「補正予算　国・都・多摩市」

2020年10月24日（土）

発表：① 大野 清（国分寺市）
② 新国 信（多摩市）
報告：伊藤 栄一

この日は、最初に大野さんから「多摩の自治体の職員数について」、総務省のホームページから取得した資料に基づきお話を伺いました。（全国のどの自治体でも平成一四年から取得できるそうです。）

総務省の「公務員のあり方研究会」資料によると、全国の地方公務員の総数は平成六年をピークに約五五万人減少し、平成六年の約三二八万人が平成三〇年には約二七四万人まで減少しました。

この研究会の中でも、「行革疲れ」「血のにじむような歳出削減、職員削減でもう限界」「行政需要が人口減少、所得減少にもかかわらず、増大し続けている」等の声が上がっていると言います。

そうした中、東京都では、人口一万人当り何人の職員数を抱えているのか？（職員数÷人口×一万人）。いちばん最近の平成三一年一月一日現在では、区部の平均六五・六人、市部の平均五九・二人で、区部の方が圧倒的に職員の配置が手厚いそうです。その内訳で民生部門を見ると、人口一万人当り区部が平均二五・四人の職員を抱えているのに対し、市部は一四・四人だそうです。

多摩の自治体の職員は、こんな少ない人数でよくやっている。行政の質、福祉・サービスの水準は大丈夫なのだろうか、と感じました。詳しくは、大野さんが「緑の風」に掲載する予定だと言っていますので、そちらを参照してください（「緑の風」vol.247）。

次に、新国さんから「コロナ禍における補正予算の状況」として、国の補正予算二回、都の補正予算八回についての解説、そして多摩市の補正予算六回の補正状況につなげてのお話をいただきました。

国の予算は当初約一〇二兆円が約一六〇兆円と一・五倍化し、その財源として発行する借金＝新発債は当初の三二・六兆円から九〇・二兆円に三倍弱増えました。

これに対し東京都は、コロナ対応で基金＝貯金をギリギリ使い切ったとするマスコミ論調もあるようですが、都が八回の補正予算合計約一・六兆円の内、三分の一の約五三二五億円が国の補助金、約四九％七八一九億円が財政調整基金の取り崩しでした。財政調整基金は令和元年度末約九三四五億

円ありましたので、その多くを取り崩しましたが、無くなった訳ではありません。

さらに、東京都は特定目的の基金を約一・五兆円有していますので、コロナで都の貯金が全くなくなることはないと思われます。

そして多摩市の補正予算についてです。多摩市は九月までに六回も予算の補正を行い、当初予算約五九〇億円が約七九〇億円と約一・三倍に急拡大しました。

補正予算で増えた分の合計は約一九九・七億円になりますが、その歳入の財源構成を見ますと、表にある通り約一七〇・一億円が国庫支出金です。これに都の支出金約六・七億円を合わせると、補正で膨れ上がった総額の八八・五％が国・都の補助金で賄われているということでした。

そして、これでは足りない多摩市の独自施策等のために、財政調整基金約一八・九億円を貯金から取り崩して補正予算を組んでいますが、総体として国や都の施策を基本にして、財源も賄われていることが分かりました。

コロナ禍で、全国の自治体が無理をしすぎて、財政破綻に陥るところも出てくるのではないか、と心配していたのですが未だ先のことのようです。

多摩市の補正予算の細かいところでは、一人一〇万円の特別定額給付金は、第二次補正で予算化されました。給付は、現在九九・六％まで終わったそうです。

第三次補正（六月）では、国の持続化給付金の対象にならない法人等の収入が三割～五割減少した中小事業者等への支援にも独自施策として取り組んでいます。（商工費　多摩市がんばろう事業者支援金　約三・七億円）

また小中学校のオンライン授業が話題になりましたが、生徒一人に一台のタブレット端末購入に約四・四億円、環境整備のＬＡＮ工事に約三・六億円の予算を組んでいます。全国でこれをやるとなると、コンピュータ会社は結構うるおったのではないでしょうか？

第六次補正（九月）では、コロナとインフルエンザの同時流行に備え、インフルエンザ予防接種業務委託費として一・二億円、また商工費でポイント還元事業として、キャッシュレス決済ポイント還元事業業務委託料約三・五億円が予算化されています。この結果、多摩市では商工費が当初約二・六億円だったのですが、補正後は約八・六億円増額され四・三倍の約一一・二億円になりました。

同様に当初予算と六次補正後の数値を目的別に比較してみますと、総務費が二・九三倍、教育費が一一・一％増、衛生費が七・五％増、民生費が四・五％増などとなっています。詳しい数値等は「二〇二〇年度多摩市　コロナ禍の補正予算」を参照してください。

新国さんの報告を聞いて、大きく膨れ上がった多摩市の財政は、大部分が国や都の補助金で賄われていることが分かり、ホッとした部分もあったのですが、これをどう検証していくか、先は長く大変だと感じました。

また今二〇二一年度の新年度の予算編成作業も始まっていますが、来年は大幅な市税の減収も予想され、行政水準を落とさず、福祉や市民サービスをどう維持・拡大していくか、地方自治体は踏ん張りどころを迎えていると強く感じました。

2020年度多摩市　コロナ禍の補正予算

歳入　　単位：億円　％

	当初	1次	2次	3次	4次	5次	6次	補正合計	補正構成比	補正後	当初比増減（額）	当初比増減（率）
歳入　合計	590.7	-2.2	156.4	18.0	5.8	9.4	12.2	**199.7**	100	790.4	199.7	133.8
補正財源												
国庫支出金	103.5	-0.8	154.6	6.8	4.1	1.7	3.7	**170.1**	85.2	273.6	170.1	264.4
都支出金	82.0	0.0	1.4	3.8	0.4	-0.3	1.3	**6.7**	3.3	88.6	6.7	108.1
財調基金	12.1	0.0	1.2	5.7	1.3	3.5	7.2	**18.9**	9.5	31.0	18.9	255.6
その他基金	0.0	1.5	0.0	0.8	0.0	-1.2	0.0	**1.1**	0.6	1.1		
市債	0.0	-2.2	0.0	0.8	0.0	-2.0	0.0	**-3.4**	-1.7	-3.4		
その他	0.0	0.0	-0.8	0.1	0.0	7.8	0.0	**7.1**	3.6	7.1		
内前年度繰越金	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	**6.9**	3.5	15.8		

目的別歳出　　単位：億円　％

	当初	1次	2次	3次	4次	5次	6次	補正合計	補正構成比	補正後	当初比増減（額）	当初比増減（率）
歳出　合計	590.7	-2.2	156.4	18.0	5.9	9.4	12.2	**199.7**	100	790.4	199.7	133.8
議会費	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.0**	0.0	4.0	0.0	100.0
総務費	83.6	0.0	151.5	0.0	0.0	4.8	5.4	**161.7**	81.0	245.3	161.7	293.5
民生費	286.1	0.0	3.4	2.9	2.3	4.3	0.0	**13.0**	6.5	299.0	13.0	104.5
衛生費	42.0	0.0	0.4	0.6	0.4	0.0	1.8	**3.2**	1.6	45.1	3.2	107.6
労働費	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	**0.1**	0.1	0.3	0.1	154.0
農林業費	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.0**	0.0	0.6	0.0	96.5
商工費	2.6	0.0	0.1	3.7	1.0	0.2	3.6	**8.6**	4.3	11.2	8.6	429.0
土木費	35.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	**-0.1**	0.0	35.0	-0.1	99.8
消防費	21.9	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	1.5	**2.0**	1.0	23.9	2.0	109.1
教育費	93.7	-2.3	0.5	10.5	1.8	0.0	0.0	**10.5**	5.2	104.2	10.5	111.2
災害復旧費	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.1**	0.1	0.3	0.1	165.1
公債費	20.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.0**	0.0	20.1	0.0	100.0
諸支出金	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	**0.0**	0.0	0.0	0.0	100.0
予備費	0.6	0.0	0.5	0.1	0.0	0.2	0.0	**0.7**	0.3	1.3	0.7	204.7

タマの風

3・11から十年①
考えるべきことは何か？

神子島 健
（かごしま・たけし）

vol.91

吾輩は夢の中で眠っていた。スプリングのきいたベッドのような地面に横たわり熟睡している。ところが、その大地が突然大きく左右へ揺れ出した。激しい上に、周りに身を隠すような場所がないので、吾輩は大地に揺さぶられるままであった。二分か、それ以上揺れ続けていたであろうか、揺れがおさまって気がつくと吾輩が地面だと思っていたのは、前ジムキョクチョーCさんのポッコリお腹であった。Cさんはあくびをして、お腹の上の吾輩を見るなり「タマ、どうした？　何か怖い事でもあったか？」と言う…、といったあたりで夢は途切れてまた深い眠りについた。

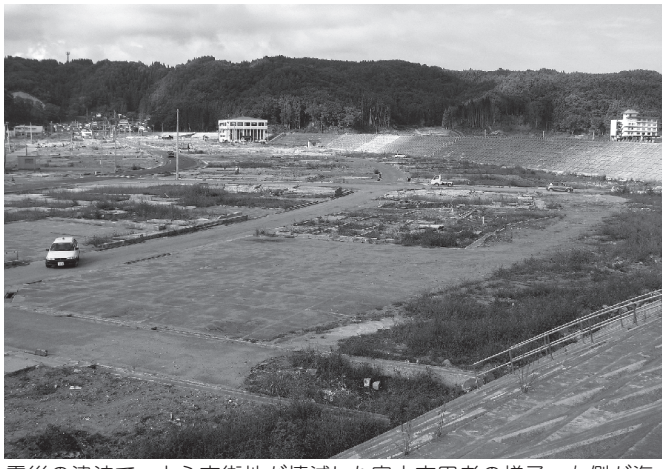
夢の中のことだから、実際にCさんのお腹の上であればあんなに揺れるわけはニャい。あの揺れはまぎれもない、東日本大震災の時に多摩で経験した揺れのフラッシュバックだにゃ。吾輩はまだ小さく、多摩研に来る前であったが、長く大きなあの揺れのことはよく覚えている。しかしもう少しで震災から十年であるから、吾輩も十歳になったわけだ。ネコの十歳は結構な年寄りである。ネズミを取り逃がすほどのヘマはしニャいが、以前ほど俊敏な動きができなくなってきた気がする。老いを意識せざるを得ない。

日本社会も団塊の世代がそろそろ七十代後半にさしかかり、社会全体の高齢化は人類史上まれに見るレベルである。他方、もとより若者が都会へ流出する傾向にあった東北の被災地では、震災後、少子高齢化と人口減少が加速した地域も多い。

ということで、東日本大震災から十年という機会に、震災について何回か書いてみたいと思うのだにゃ。吾輩としては今までも少しではあるが東北を見てきたし、それについて書いてきた。今までの集大成というと大げさかも知れニャいのだが、先にも書いたように老い先短くなってきたので、書けるうちに書いておこうと思う。

さて、久しぶりに独白モードになってしまったのだが、本題に入りたいと思う。多摩研事務所での光景である。坊主頭が編集長たちと話をしている。「中井久夫という有名な精神科医の本を読んでいるんですけどね」と、手に持っている本を見せる。「阪神・淡路大震災についてですね？」

「はい。彼は震災の時に神戸大学医学部の精神神経科の教授でした。混乱の中にあった大学病院の精神科の状況について記録を残しています。東日本



震災の津波で、中心市街地が壊滅した宮古市田老の様子。右側が海。2011年8月撮影。

大震災の直後、3・11について考えたことを追記して、『災害がほんとうに襲った時』(みすず書房、二〇一一年)という本を出しました。その中に「今回でも、世界は少し賢くなると思いたい」と、福島の原発事故について、チェルノブイリのことなどにも触れながら書いていいるんですよね」

「「今回でも、世界は少し賢くなると思いたい」ですか」「はい。中井は文脈上、わりとサラッと書いているんですけど、十年近く経ってこのことばを取り出して読んでみると、祈りの込められたことばのように感じてしまいます」「現実には賢くならなかったからそう感じている、という風に受け止めていいかな?」「そうですね、残念ながら」

原発は再稼働され、しかも今度は女川という被災地でも再稼働する動きが現実になりそうであるにゃ。

「阪神・淡路大震災というと、PTSD(心的外傷後ストレス障害)ということばが広がった契機でしたね」「そうです。中井もそこに関わった一人ですね。心の傷が人に与える大きな問題が、それまでは日本社会でしっかりと認識されてこなかったことを意味します」「なるほど、そういう意味合いがあるんですね」

「中井久夫が翻訳に関わった、PTSD研究の基本書ともいえるのが、ジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』(増補版、みすず書房、一九九九年)なんですが、ここで取り上げられる重要な事例が、性暴力の被害者と、ベトナム戦争の帰還兵です。ベトナム戦争で、兵士たちの精神に大きなダメージがあったことが注目されて、特に彼らが社会復帰できないことが社会問題になっていました」「なるほど、アメリカらしいともえいえますね」

「戦争による精神障害の研究自体は、欧米では第一次世界大戦から始まるのですが、その医学が発達したとしても、国家が戦争をし続ければ同じことが起こる。イラク戦争でも同じようなことが起きました」「戦争は、生き残った人間も結局のところ「破壊」してしまうわけですね」

「ちなみに、アジア・太平洋戦争で、日本兵もダメージを受けていたにもかかわらず、そのことの意味は最近まで十分な注意を払われてこなかったわけです。『少年寅次郎』というドラマがNHKで二〇一九年に放送されました。『男はつらいよ』の車寅次郎の少年時代を描いた作品ですが、寅次郎の父親が戦場で小さい子どもを殺したことがトラウマとなっていることがほのめかされていました」「『男はつらいよ』、好きだねえ」「ええ。で、娘、つまり小さいころのさくら(寅の妹)を見て、

友達のシンちゃんだにゃ。

（おそらく）小さい子どもを殺したことがよみがえって声を挙げてしまったというシーン。あれなんかは最近の問題意識が反映されているなって感じますね」「ふーん」「ちなみに山田洋二が書いた原作（『悪童』二〇一八年）では、そこまで踏み込んだ表現ではありませんでした」「へえ」

「中井の本に戻りますが、興味深いのは、発災直後の緊急対応をしている医療の現場は本当にすごい状況なのに、交通がマヒしていると、人員の交代ができません。同じメンバーがしばらくの間ぶっ続けで対応せざるを得ないわけです。こんな記述があります。「医師とナースをインフルエンザが見舞った。患者に蔓延したインフルエンザは不眠不休の医師・ナースに容易に伝染した。救急副部長がついに倒れた。精神科から救急部に出向していたH研修医によれば、三日不休で働き、おにぎり一つにありついたのは三日目だったという。総じてロジスティックス（兵站）という概念の欠如が目立った。このように飲まず食わずでも持ち場を放棄しない日本人の責任感にもたれかかって補給を軽視した五十年前の日本軍の欠陥は形を変えて生き残っていた」とあります」

「コロナの今聞くと余計におそろしいですね。医療現場はたいへんになっているのに、コロナで診療控えもあって、病院経営が苦しくなっているのが現状です。政治家が、現場の状況を理解した上で政策を出しているとは思い難い状況が各地で見られますね」

さて読者諸君、ここで話はコロナに移ってきた。コロナ禍の保健医療態勢は言うまでもなく重要事項であるが、少し気をつけニャいと、コロナという今の状況に引っ張られて、震災の本質が見えニャくなっては本末転倒なのである。むしろコロナを通して震災の本質をあぶりだすような視点を取ることが大切なのだと吾輩は思うところである。しかしそれが難しい。三月になれば東日本大震災十年の報道も増えるだろうが、コロナの話にねじ曲げられて考えるべきことが見えニャくなっては困るのだ。

とはいえ、今、東日本大震災を通して考えるべきこととは何なのかというのは、結構な難問である。十年を経ての被災地の人々の生活がどうなっているのか。被災地を離れて暮らすことにした人たちは何を思っているのか。十年という時間では全く問題が片付かない原発事故をどう捉えるのか。亡くなられた方をどう位置づけるのか、遺族は何を考えているのか。記憶をどう継承していくのか。すっかり風景の変わった「故郷」と、その故郷しか知らない若い世代と上の世代のギャップはどうなるのか。そうした事実の認識をふまえた上で、毎年のように自然災害が起こるこの日本社会のこれからにどうつなげていくのか…。（つづく）

多摩研会員のみなさま、e-mailアドレスをお教えください！

多摩研では50周年に向けて、『緑の風』以外にも様々な情報をe-mailにて発信したいと考えております。つきましては、会員のみなさまのe-mailアドレスをお教えください。ご自分のe-mailから下記のアドレスに以下の内容を入力の上、ご送信お願いいたします。

※添付でPDFファイルやWord・Excelファイル等も送信する可能性が高いため、PCのe-mailアドレス（携帯のe-mailアドレスは不可）をお送りください。既にe-mailで多摩研からのお知らせ等が届いている方は、お送りいただかなくて結構です。

◆宛先：tamajiken1972@space.ocn.ne.jp
◆件名：多摩研メールアドレス登録
◆内容：ご自分のお名前（フルネーム）

こちらのQRコードから「多摩研お問合せフォーム」にアクセスしていただき、ご自分のお名前とe-mailアドレスをお送りいただくこともできます。

編集後記 ひとこと ふたこと

早いもので今年もあと数日となりました。二〇二〇一月にWHOが新型コロナウィルスの検出を確認してから、丸一年が経過しようとしています。一月初めには対岸の火事として旅行は控えようか…程度の認識でしたが、火事はあっという間に大火となり、我が事として感染症対策の必要性に迫られることになりました。

日常生活が変わり、働き方が変わり、友人付き合いが変わりましたが、意外にも頭に浮かぶ感情は「慣れてしまった」の一言です。消毒液アルコールを常備し、混雑を避け、対面での集会を止め、時にはテレワークを行う、「新しい生活様式」にすっかり慣れてしまいました。一人での行動は元々好きですし、花見も一人で桜を見上げます。少ない友人とも幸いオンラインで付き合いが続いています。

しかし、ふと思うのです。「私と違う価値観の人は不自由を抱いていないか」と。人それぞれ趣味趣向は違います。特に多様性はどんどん進み、世代や所属を超えて共通する価値観を持つことは難しくなっています。

そんな中で「自由」を私は尊いと思い、様々な人と共有したいと考えています。このコロナ社会の中で、「不自由」を感じている人に「自由を」

二〇二一年はそんな年にできたらと思います。

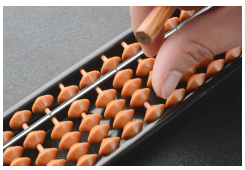
（事務局　松川遥）

財政研究会のお知らせ

第64回　学習会

テーマ未定

日　時：2021年
　　27日(土)　14：00～
場　所：多摩住民自治研究所
参加費：300円



アマビエTシャツ
在庫は残り少数となっております。
詳しくは事務局までお問い合わせください。